

会 議 録

1 会議名

平成28年度 第1回上越市立図書館協議会

2 報告・協議（公開）

- (1) 平成27年度図書館の利用状況について (資料1)
- (2) 平成27年度図書館の事業実績について (資料2)
- (3) 平成28年度図書館関係予算の概要について (資料3)
- (4) 平成28年度図書館の事業計画について (資料4)
- (5) 「みんなの本だな」事業の終了について (資料5)
- (6) その他

3 開催日時

平成28年7月22日（金） 午後3時から5時まで

4 開催場所

上越市立高田図書館 第1会議室

5 傍聴人の数

なし

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：荒木委員、上原委員、大越委員、小埜委員、田中委員、丸山委員、森（由）委員
- ・事務局：社会教育課 大山課長
高田図書館 池田館長、小暮副館長、佐藤係長、丸山係長、
直江津図書館 佐野館長、内山係長

7 発言の内容（要旨）

<上越市立図書館条例施行規則第18条2項の規定により小埜委員長が議長となる>

小埜委員長：議事に入る前に、高田図書館の分室が今年度から公民館に移管された。その現状の説明をお願いしたい。

大山課長：3か月だけの実績ではあるが、公民館図書室全体の集計としては、貸出者数、貸出冊数ともに、前年度に比べて増えている。現在、各区の公民館図書室に図書購入

方針の策定をさせているところである。公民館図書室になったことについて、特に利用者からの苦情は寄せられていない。

小笠委員長：これまでと運営が変わったところはあるか。

大山課長：一部、土日の運営体制が施設の管理人だけが変わった区もあるが、ほとんどの区では変わっていない。

池田館長：高田図書館から公民館図書室への搬送冊数は昨年度の半分になっているが、これは、従来は分室への団体貸出だったものが、公民館図書室を利用する個人への貸出に変更になったことによるものと考えている。このことについても特に苦情等は寄せられていない。

○ 平成27年度図書館の利用状況について

事務局：別紙資料1により概要説明

大越委員：予約件数の減の説明で、図書館に読みたい本がないというのは問題ではないか。

佐野館長：図書館としては、限られた予算のなかで図書を選んで購入している。リクエストについても、限られた条件でできる限りの対応をしているのが現状である。

森（由）委員：公民館図書室に本のリクエストをしたが、図書館に入っていないと言われ、高田図書館に直接聞いてくれと言われた。公民館図書室の窓口職員の講習会をしてもらいたいと思う。

池田館長：組織的に変わったところであり、不慣れな部分もあったかと思う。

小笠委員長：読みたい本を読みたい人に届けるネットワークの構築をしっかり作ってもらいたい。

荒木委員：団体貸出について基本的なところを教えてください。

丸山係長：企業や学校、老人福祉施設などが団体として貸出カード登録している。やはり学校の利用が多いが、授業が重なって特定のジャンルの本に希望が集中したり、借りたい日までのスケジュールに余裕がなかったりなど、課題もある。

○ 平成27年度図書館の事業実績について

事務局：別紙資料2により概要説明

大越委員：分館の担当者についても協議会に出席してもらい、事業の報告をしてもらうのは難しいのか。そうすれば、一定の責任感も生まれるし、仕事に対する意識も変わってくると思うが。

池田館長：分館は非常勤職員が交代勤務で担当していることから、協議会に出席するとなると、その分、だれかがフォローしなければならなくなる。いずれにせよ、分館の実績等も報告できるよう、次回に向けて調整を図りたい。

田中委員：この協議会は上越市の図書館全体をより良い方向にしていけるための会だと認識している。しかし、報告を聞いていると、分館の報告がないという指摘もあったが、高田と直江津がそれぞれどのくらい増えたという報告だけで、全体統括の報告がない。上越市の図書館全体の数値は前年度と比べてどうだったのか、という報告があるべきではないか。そうでないと、上越市の図書館全体の評価ができないと思うが。

小埜委員長：分館もあるのでそこを含めたトータルの説明も重要だと思う。ただ、お互いの図書館が切磋琢磨していくこともよいことだと思う。

池田館長：上越市の場合はいわゆる中央図書館がなく、高田と直江津が並列の位置づけである。個々の事業は、各館の担当から説明させていただくのが妥当だと思うが、全体の説明の仕方はまた工夫させていただきたいと思う。

○ 平成28年度図書館関係予算の概要について

事務局：別紙資料3により概要説明

丸山委員：4月から障害者差別解消法が施行されたが、そういったことへの対応は予算のなかに盛り込まれているのか。

池田館長：平成28年度の予算には盛り込まれていない。市の福祉課を中心に障害者差別解消法への対応方針を整理中と聞いている。図書館として予算化が必要なものがあれば、その方針の公表を受けてからになると思う。

丸山委員：図書の購入予算について、特定の分野に力を入れた予算要求を行うことは考えていないのか。

佐野館長：平成28年度の予算では特にそういったことは考えていなかったが、今後

はそういったことも視野に入れて予算要求していくことはあり得ると思っている。

池田館長：高田図書館では、今年度はティーンズコーナー設置ということで、必要な図書を予算要求した。

○ 平成28年度図書館の事業計画について

事務局：別紙資料4により概要説明

上原委員：高田図書館にティーンズコーナーがオープンしたが、高田、直江津でティーンズコーナーを活用した企画は考えているか？

佐野館長：直江津図書館では参加型の企画「俺の！押し本」を予定している。年間予定としては上がっていないが、随時、企画を考えて実施している。

丸山係長：高田図書館は、これまではティーンズコーナーのオープンを目指して進めてきたので、それで手いっぱいだった。今後、企画を考えていきたいと思っている。

大越委員：図書館こども祭について、参加者からの意見として、4館どれも行きたかったという意見があった。4館同日に開催せず、日をずらして開催することはできないのか。

佐野館長：そのような声があったのであれば、今後、対応を考えていきたい。

森（由）委員：本の修理ボランティアを募ってはどうか。最初のうちは、職員が修理方法を手ほどきする必要があると思うが、だんだんと軌道に乗って、ボランティア内で修理の技術が伝承されていくようになれば、職員が修理を行う手間も費用も省くことができると思う。本を読まない人も、ちょっと行ってみたいくなるような図書館、人が集う図書館を目指してもらいたいと思う。そういう人たちが、やがて利用者になっていくのではないか。

佐野館長：ボランティアによる図書館サポーター的なものということであれば、今後、職員間で議論しながら、検討していきたいと思う。

○ 「みんなの本だな」事業の終了について

事務局：別紙資料5により概要説明

小笠委員長：引き続き、本だなとして残したいというところには、何らかの協力をし

ていくということか。

小暮副館長：そのようにしたいと考えている。

○ その他

(事務局からの連絡事項)

小暮副館長：今年度の協議事項として、全国的に導入する図書館が出てきている「指定管理者制度」について、皆さまの御意見をお聞きしていきたい。ついでには、次回の協議会で意見交換を行いたいと思っている。ご協力をお願いしたい。

大越委員：先に図書室サポーターという話があったが、公民館図書室のサポーターを養成する講座を公民館として実施してはどうか。

大山課長：図書館側と相談しながら前向きに考えていきたい。

8 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL：025-523-2603

E-mail：t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

別添の会議資料もあわせて参照ください。